※令和４年度以降入学生用

学校番号	T0301

令和５年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ａ（通信）	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「新　高校の数学Ａ」　（数研出版）						
副教材等							

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・１年生の数学Ｉを復習しながら、順列・組み合わせ、確率について学習します。また、社会生活において数学が活用されている場面や身近な事象を数理的に考察する技能を身につけます。
・わからないことはすぐに授業担当者に質問をしても構いません。わからないことをそのままにしておくことはやめましょう。
・スクーリング（授業）に全て出席することが基本です。欠席すると授業内容がわからなくなるため、レポートの作成が難しくなります。
・定期テストは授業内容を中心に出題されます。
・教科書を使います。忘れずに持ってきて下さい。

２　学習の到達目標

順列・組み合わせ、確率についての基礎的な知識や技能を習得します。
また、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにします。
さらに、それらを活用する態度を身に付けることを目標とします。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。	事象の構造、確率の性質や法則に着目し、場合の数や確率を求める方法を多面的に考察したり、確率の性質に基づいて事象の起こりやすさを判断したりできるようになる。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性を身に付ける。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	場合の数	集合 集合の要素の個数 和の法則･積の法則 順列 順列の利用 組合せ 組合せの利用	a:集合や、集合の要素の個数に関する基本的な関係、和の法則・積の法則などの数え上げの原則について理解している。具体的な事象を基に順列及び組合せの意味を理解し、順列の総数や組合せの総数を求めることができる。 b:事象の構造などに着目し、場合の数を求める方法を多面的に考察することができる。 c:場合の数について、意欲的に学習しようとしたり、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善しようとしたりしている。	定期考査	定期考査 ワークシート	レポート 課題 観察
後期	確率	事象と確率 確率の計算 排反事象の確率 余事象の確率 独立な試行と確率 条件付き確率	a:確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを用いて事象の確率を求めることができる。独立な試行の意味を理解し、独立な試行の確率を求めることができる。条件付き確率の意味を理解し、簡単な場合について条件付き確率を求めることができる。 b:確率の性質や法則に着目し、確率を求める方法を多面的に考察することができる。確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断することができる。 c:確率について、意欲的に学習しようとしたり、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善しようとしたりしている。	定期考査	定期考査 ワークシート	レポート 課題 観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度